



自分と違う意見を
認め合う環境、
独創的な才能を
育てる環境をつくる事

対談

小池百合子 衆議院議員 (「美術授業にカメラ」推進委員会委員長)

鈴木英雄 副会長

写真：原 貴彦

写真芸術に対する
意識改革が必要

鈴木 日頃から「美術授業にカメラ」にご尽力頂きありがとうございます。よく質問されるのが「美術授業に写真」ではなく何故「カメラ」なのだと言う方が多いのですが、写真ですと身近にある雑誌に載っている写真を使って美術授業ができます。「カメラ」にすると撮影をする事を宣言しています。

小池 中学生になると美術が嫌いになる生徒さんが出て来ると聞いていますが。

鈴木 絵を描く事や造形物を作るには、それなりの手先が思うように動く器用さが求められます。自分の考えている事が思い通りに描けたり、作ったりできないと段々に嫌いになる生徒さんが出てきます。本来は素晴らしい想像力で、新しい発想や感性が先にどんどん成長する時期ですから、その所を伸ばす為にも「美術授業にカメラ」は「発見・即・表現」ができて、新たな感性の目覚めの気づきを応援したい。

小池 2020年に日本で東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが世界のスポーツイベントでは殆どのカメラ機材が日本製ですね。

鈴木 35ミリタイプでは日本の独占状態ですね。経済大国「ニッポン」であり、カメラ大国「ニッポン」です。しかし残念ですが写真文化大国ではないのです。カメラ発祥のフランスでは2年に一

度「パリ写真月間」が開催されます。美術館、ギャラリー、図書館、広場、路地等、あらゆる場所が写真の表現の場所になります。毎年パリで11月に開催される「パリフォト」も写真の国際的なフェアです。写真を芸術として捉えています。

小池 日本もカメラ大国として写真文化を置き去りにしてはいけませんね。

鈴木 日本にも写真ギャラリーが多くあります。しかしパリやニューヨークに比べると、絵画や版画のように芸術として捉えられていません。芸術作品として購入するという意識が少ないのです。ですから写真作家が育ちにくい環境にあるという事です。写真は記録だけに留まらず表現する芸術になるという事を日本の文化として確立を目指しています。

小池 写真芸術に対する意識改革が必要になってきますね。

国は国民と共に学び、
教育は国を守り自分を守る

鈴木 意識改革と言えば地球温暖化対策の先駆者として小池百合子さんイコール「エコバック」ですね。今や当たり前になっています。

小池 原点は風呂敷から来ています。お風呂場で自分の衣服を屋号の付いた布に包んで置くことからこの布を風呂敷と呼びました。昔からの日本人の知恵です。江戸時代は色々とエコの知恵がありました。地球温暖化対策で環境大臣の時です

鈴木 そして「クールビズ」は日本の夏の男性のドレスコードを変えました。本当はオフィスにいる女性と地球を守る為に考えたと聞きました。

小池 そうですね。真夏でも男性は上着を着ますから薄着の女性は冷房病になるし…。当時は真夏でも女性は机の下では膝掛けは必需品でした。そこで、室温が28度で快適に過ごせる為の意識改革を起こして共感を得たのです。

鈴木 沖縄の「かりゆし」も有名にしましたね。

小池 沖縄では公式な正装です。

鈴木 あとは「20・30（にいまるさんまる）」。

小池 2020年までに女性の活用を30%にすること。

鈴木 それと「20・20（にいまるにいまる）」。

小池 少子化対策ですね。2020年までに出生率2.0人にしようと狙っています。フランスがその対策を目標に掲げ、実践して達成しました。

鈴木 とにかくネーミングが上手いですね。僕はいつもビジョンとは目的×時間であると考えています。数字のネーミングは時間×目的で明解ですね。選挙公約に電柱をなくすとありましたが。

小池 自民党に無電柱化推進議員連盟をつくり、小委員会で議論を重ねて無電柱化基本法案を定めて新たな電柱は原則立てない。「無電柱化民間プロジェクト」実行委員会を設立しまして災害に強い町



「美術授業にカメラ」は「発見・即・表現」、新たな感性の目覚めの気づきを応援したい。(鈴木)

そこにある法則とは。

小池 「大義と共感」物事には大義と共感がなければいけません。大きな事を言っても人々に共感を持っていただかないと絵に描いた餅になってしまいます。アクションを起こすという事ですね。

鈴木 「教育は最大の防衛」と聞いた事があります。

小池 自国の正確な歴史を教える事が大事です。特に自国の事を知らずして外に発信する事はできません。日本のメディアや教育が自虐的に日本人を卑下しているのを世界は不思議に思っている。日本の歴史が育んだ文化は世界で絶賛されています。自他ともに認める「クールジャパン」に自信を持つ事です。本来の教育目的は自国民の知識と知恵によって生産力を上げて豊かな国にする事です。国は国民と共に学び、教育は国を守り自分を守る。という事を教育の基本に置く事です。

鈴木 安倍政権では「人づくりは国づくり」と唱えて教育再生実行会議が立ち上がりましたが。

小池 教育再生は財政再生と並ぶ日本国の最重要課題として21世紀の日本に相応しい教育体制を構築し、教育の再生を実行に移していきます。日本の経済再生や活力維持のため、世界で戦える「グローバル人材の育成」、特に英語とコミュニケーション能力を高める教育です。「イノベーション創出を担う人材の育成」では効果的な育成の為に10〜20年後を見据

づくり「景観・観光」「安全・快適」一番は「防災」ですね。

鈴木 災害時は緊急車両が電柱で道がふさがれますからね。神戸の大震災では通行できなくて可成り救助がくれたと聞きます。「無電柱化民間プロジェクト」今までのキャッチと比べるとストレートでひねりが今回はありませんね。

小池 わかりやすいのが一番です。で

もサブタイトルが「上を向いて歩こう」。電柱の弊害を「電線病」として皆さんに伝えていきます。

鈴木 ここで小池さんの本領発揮ですね。結構オヤジが入っていますよね(笑)。国会の厳しい猛者の方々をお相手するには多少の「オヤジ」の押しが必要になるのでしょうか。小池さんはある法則を導き出して問題解決を導き出す天才ですが、

えた『理工系人材育成戦略』を立てています。

鈴木 『グローバル人材の育成』は小池さんのような人を沢山育成するという事ですね。外国語が堪能だけではなく『グローバルな人材』に特に必要なものは何ですか？

小池 自分の意見を持っている事、語学のスキルだけではなく日本の歴史や文化対人との交渉力というか自国語でコミュニケーション能力を高める訓練が必要ですよ。

鈴木 『イノベーション創出を担う人材の育成』これも理数が優秀なのは勿論ですが世界に通用する人材でやはり今教育に必要なものは何ですか？

小池 日本で気になるのは独創的な人を押さえ込むような所がありますよね。そこが残念です。自分と違う意見を認め合う環境、独創的な才能を育てる環境をつくる事です。小さいときから想像力や心豊かな感性を育てる教育が大事になります。

鈴木 今の日本には、益々芸術教育は有効的ですね。特に答えない教育。心の教育です。

小池 世界的に高い教育水準を誇る事で注目された北欧、特にフィンランドでは美術教育の時間割合は世界一と聞きます。どの教科も一方的にレクチャーするような授業は少なく、対話形式で進められて、美術でも対話やコミュニケーションを重視しているそうです。自由な発想と想像

力を育てる事に力を入れて、いかなる作品を作ろうと児童生徒の気持ちを大事にして自信を持たせる教育をしていると聞いています。PISA(国際的な学習到達度調査)の点数が高いのは一方的に教える事に留まらず自分自身で考える姿勢を大事にしているようです。

鈴木 そうですね。心の教育も同時に行っているようですね。

小池 今の日本が観光立国を目指しているのは日本をグローバル化する事で経済や文化も含めた全てにおいて強いニッポンを目指しているからです。『日本人が日本を知る』大切な事です。留学した人が帰国後改めて日本を見直すのは他国の人と比べてアンデンティティの大切さを再認識するからです。特にこれからは地方の着地型観光として地元の生活環境

を中心に観光を広げて行く事も海外から期待されています。

鈴木 日本人が日本を発見して行く事が大切になりますね。こういう意識を小さい時から訓練して行く時には『発見・表現』のカメラは威力を多に発揮します。カメラを美術授業の必修にする事で児童生徒さんの物を見る目線が変わってきます。カメラは感性の発見に繋がります。そういう生活環境というか教育環境こそが想像力を伸ばすことで国力を強くする事ができると考えますが。

日本人が日本を発見して行く事が大切

小池 『全国学校図工・美術写真公募展』にテーマはあるのですか？

鈴木 実践授業以外の学校からも公募作品の半分も集まるようになりました。そろそろテーマを掲げて公募する事も検討しています。観光をテーマでも面白いですね。

小池 全国の小中学生が地元の風景写真や歴史や生活に関する情報をブログに載せて『観光立国』の意識を根付かせたいですね。

鈴木 生きた情報は価値がありますね。公募展の観光テーマは面白いですね。強いニッポンの応援ですね。

小池 『電柱のある風景と無い風景』こんなテーマも素敵ですよ(笑)。

鈴木 それも面白いですね。



“小さいときから想像力や心豊かな感性を育てる教育が大事になります。(小池)”